

# H28 研究の概要

## 研究主題

**主体的に学び，豊かに表現できる子どもの育成**

～楽しく「わかる・できる」学習活動の工夫を通して～

### 1 研究主題設定の理由

本校ではこれまで、特別支援教育の考えを生かした“学びのユニバーサルデザイン”の授業改善に取り組んできた。子ども一人一人が、わかった・できた喜びを実感できるように、全員参加の質の高い授業を目指して、各教科の特性を考えた授業研究を実践してきた。特に言語活動の充実に努めることで、「思考力、判断力、表現力等」を育成し、知識や技能を幅広く活用していく能力が身に付くよう取り組んできた。また、課題となっていた考えの共有化部分に焦点を当て、「問い直し」による効果的な学び合いを生かした共有化の推進や、子どもが問い、子どもたちで問題解決する授業スタイルの確立を目指し、アクティブ・ラーニングを取り入れた新たな学習スタイルを構築し、授業改善を図ってきた。その結果、子ども一人一人が学習課題を主体的に受け止めて、自分なりの考えをもち、協働的に学習する姿が見られるようになってきている。

また、授業づくりの基盤として、道徳や特別活動の時間を大切にしてきた。さらに昨年度からは、平成30年度の道徳の教科化に向けて準備を進めてきた。児童一人一人が自己を見つめ、道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えを深め、主体的に道徳的実践力を身に付けられるよう、児童の実態を把握し、道徳の時間の学習指導の工夫を加え、実践してきた。また、特別活動における道徳的実践の指導にも力を入れて取り組み、学級活動を基盤にした指導も継続している。

しかし、話し合いで共有した考えをより質の高い学びへとつなげることや、身に付けた知識を活用すること、さらには、分かった、できたことの喜びを実感させ、自信をもたせることについては、やや課題が残っている。また、子どもたち同士の安心して話し合える関係や互いに認め合う関係、そして個々の自己有用感など、学習の基盤となるよりよい人間関係づくり、学級づくりや個に応じた配慮にも一層力を注ぐ必要がある。

そこで、今年度は、道徳の時間の指導方法の研究を中心に豊かな人間関係を構築し、よりよく生きる力を身に付けることで学習の基盤をつくることと、学びのユニバーサルデザインやアクティブ・ラーニングを土台とした授業改善を図り、「わかる・できる」喜びを実感させながら、思考力・表現力を育成していくことの二つを柱とし、課題解決を図りたい。これらの共通実践を継続することで、主体的に学び、豊かに表現力できる子どもを育成できるのではないかと考えている。